

いのちを食べて生きている私たち。私たちの生活を支えている農のこと、そして自給自足の暮らしについて、もっと身近に感じてみてください。



オディ農園 羽鹿秀仁さん

私は2006年に三重県の赤目で有機農業を始めました。すぐ近くには、川口由一さんの「赤目自然農塾」がある自然豊かな場所です。ここに来るまで農業とはほとんど縁のない生活をしていましたが、たくさんの方々を支えられ、少しずつ軌道に乗ってきました。2007年には嫁さんに出会い、翌年に結婚、今は二人で農的な暮らしを楽しんでいます。

『地球村』との出会い

私は大学卒業後、コンピュータの営業マンを経て、中小企業診断士として独立。その後、青年海外協力隊で中米のニカラグア、パナマで5年、「地球村」スタッフとしてアフガニスタンで3年、合計8年間、海外支援活動をした後、農業を始めました。私と「地球村」の出会いは、青年海外協力隊でニカラグアに赴任中に2万人以上の死者を出したハリケーン・ミッチの復興支援活動をしていた時です。このハリケーンの被災者のほとんどは、川沿いや地すべりの危険のある地域に住む一番貧しい人たちでした。それまで貧困問題は支援活動で解決できると思っていましたが、地球温暖化を初めとする環境問題がある限り本当の解決にはならないと気付

きました。それから環境問題を勉強しましたが、様々な問題を個別に解説している本が多く、もう一つピンときませんでした。そんな時に「地球村」のことを聞き、事務局を訪ねました。何度か講演会やMMに参加し、ボランティアやスタッフとして働きながら、環境問題の現状とそれを引き起こしている原因が私たち一人ひとりの生活だと知りました。そのときの気付きとショックが農業を始める遠因となっています。

日々の暮らし

今、田んぼ7反(1反 1,000m²)でお米を作って販売し、畑3畝で自分たちが食べる野菜を作って暮らしています。田植えや稲刈りなど忙しい時期には、たくさんの方が手伝いに来てくれます。5月から11月くらいまではお米作りで朝早くから日暮れまで、田んぼで過ごしています。ずっと腰をかがめているつらい作業も大勢でにぎやかにやっているとあっという間に時間が過ぎていきます。時には子供連れのご家族も参加し、子供たちは初めての田んぼの体験に大喜び、にぎやかな笑い声が田んぼに響き渡ります。

農作業では、できる限り機械を使わないようにしているので、田植



え、草取り、稲刈りなどほとんどを手作業でこなしています。「農業で食べていくためには機械や農薬を使わないと無理だ」と周りから言われていますが、できる限り自分の肉体と友人たちの協力で手作業でやっていこうと思います。昔は一反の田んぼの田植え、稲刈りを一日で出

来て初めて一人前と呼ばれていたようなので、少しでもそれに近い体力や精神力を付けたいと思うからです。農業をやっていると、「歩かない」「動かない」「重いものを持たない」といった現代の都会での生活が、何千年も続いてきた人間本来の生活とはかけ離れたものだとつくづく感じます。不便で肉体的に大変だけれども、これからも自然に近い生活を楽しんでいきたいと思っています。

これからの目標

今のライフスタイルに満足していますが、毎年少しずつ自分が作るもの、できることを増やしていこうと思っています。未知のことにチャレンジし、自分の新しい能力を発見するのはとても楽しいものです。去年収穫したお米を送った時、ある友人が「去年までも美味しかったけど、今年はお米の美味しさの質が変わった。結婚して二人が力を合わせたことで、すごいエネルギーがお米に込められているんじゃないですか」と言ってくれました。あるワイン作りの名人が「あらゆる物は作り手の心を運ぶ。思い煩って作られたものは迷いを運び、楽しんで作られたものは楽しい気持ちを運ぶ」と言ったように、まず自分たちが楽しみながら、すべてに感謝してお米を作り、そのお米をたくさんの人にお届けしたいと思っています。

もうひとつの大きな目標は、自分の生き方を変えていき、周りにメッセージが伝わる人間になることです。私の大好きなエピソードがあります。良寛和尚の兄弟子の仙桂和尚は、倉敷にある円通寺で30年以上過ごしましたが、その間一度も座禅や、信者の方々への説法はしませんでした。ただひたすら自分の仕事である野菜作りに励み、その野菜を村人に食べてもらうことを続けていました。仙桂和尚は100万遍の説法よりも、まず自分のできることを実践し、その実践を通じて周りの人に幸せを広げていきました。私も仙桂和尚のように、大切なことが自

然と周りへ伝わっていく人になりたいと思っています。

農業を始めた当初、「地球環境や人々の健康を守る事が大切で、お金や効率が優先され



ている今の世の中は間違っている!」という思いが強く、「自分は正しいんだ」という正義感や義務感で、農業に関わっていました。しかし、自然の中で生活し、嫁さんと語り合う中で少しずつ心境の変化が出てきました。環境問題などの情報を言葉で伝えるのではなく、実際に農作業を体験し、各人にいろいろなことを感じてもらいたいと思っています。これからも全てに感謝しながら、農作物を育て自立することを楽しみ、幸せな家庭を作り、少しでも幸せを広げたいと思っています。まだまだ道は遠いのですが、少しずつ地道に実践していきます。これからも応援よろしくお願いします。

みなさんお待ちしています

オディ農園 羽鹿 秀仁

〒518-0737 三重県名張市安部田 893

TEL : 080-3101-0482

E-Mail : hidehajika@nifyt.com

オディ農園ではお米作りのお手伝いやお米の購入をしてもらえる「お米サポーター」を募集しています。お米作りに興味のある方、農薬や化学肥料を使わず、手作業で作ったオディ米をご購入いただける方はご連絡ください。

このコーナー - に登場していただける方を募集しています。自薦他薦問いません。メールでご連絡ください。Mail: tusin@chikyumura.org